

## 麻酔科外来受診日の術前オリエンテーションの効果

河村 智子 原田 達恵 小森 美弥子  
大橋 弘美 後藤 順子 白木 優子  
大野 種子

**要旨:** 先行文献で、「術前訪問を実施することは重要である。」と言われている。当院では、現在術前訪問を75%実施している。術前期間が短い中、術前訪問を実施する努力をしていたが、休業日翌日の午前中の患者に対する術前訪問はできていないのが現状であった。そこで、麻酔科外来受診後に術前オリエンテーションを実施した。これには時間の制約や場所の確保、手術日までに時間があるなどの様々な課題が予測されたが、出来る範囲で実施し、患者の評価を得ることができた。

### 【はじめに】

当手術室では、手術を受けられる患者に、術前オリエンテーションを実施している。近年の入院期間の短縮に伴い患者の術前入院日数も平均1.3日となっており、術前オリエンテーションは、手術前日または手術当日に実施するのがほとんどとなっている。そのため、現在は休業日翌日の午前中（9時～10時とする）手術予定の患者は、手術室看護師からの術前オリエンテーションを受けないまま、手術に臨んでいる。

当院は、手術件数年間約4000件のうち約500件が麻酔科管理で行われており、休業日翌日の午前中には、麻酔科管理の全身麻酔または腰椎麻酔の手術が1～2件予定されている。そのため、麻酔科管理の手術だけでも年間約80件の患者が手術室看護師からの術前オリエンテーションを受けずに、手術に臨んでいることになる。

細澤<sup>1)</sup>は、「術前訪問をすることにより、患者側は手術室看護師と面識を得ることで不安が軽減される。看護師側は患者の情報をアセスメントし個別性のある看護を提供することができるため、術前訪問を実施することは重要である。」と述べている。術前オリエンテーションは患者

にとっても看護師にとっても重要かつ必要なものである。そして、すべての患者に術前オリエンテーションを実施することが必要である。

そこで、麻酔科管理で手術を受けられる患者が手術前に必ず受診する麻酔科外来を利用して術前オリエンテーションを実施することで、今まで実施できなかった患者に対して術前オリエンテーションを実施できるようにしたいと考え、取り組みを行ったので報告する。

### 【研究目的】

麻酔科外来受診日に術前オリエンテーションを導入することで、今まで実施できなかった患者に対して術前オリエンテーションを実施できる。

### 【倫理的配慮】

対象へ研究の目的・内容を説明し同意を得、情報は個人が特定されないように配慮した。

### 【研究方法】

1. 研究対象  
麻酔科外来を受診し予定手術を受け、当研究の主旨を理解し同意を得た患者43名
2. 研究期間

平成29年1月～平成29年4月

### 3. 調査方法

手術後2～3日目に手術室看護師が患者訪問し聞き取り調査を行った。結果を麻酔科外来受診日の術前オリエンテーション導入前後で比較した。

## 【結 果】

麻酔科外来での術前オリエンテーション導入前13名、導入後30名の聞き取り調査の結果は次のようであった。導入後の対象者には、平日入院患者も6割含んでいる。

手術を受けた患者の年齢は、導入前は70歳代が46%と一番多く70歳～80歳代で全体の70%以上を占めた。導入後は60歳代が一番多く、60歳代～80歳代で全体の70%以上を占めた(図1)。性別は、導入前は女性が70%近くを占めたが導入後は男女差はなかった(図2)。手術診療科は、整形外科・泌尿器科・ウロギネ科・耳鼻科の4科であった(図3)。麻酔の種類は、全身麻酔と腰椎麻酔であったが、導入後は全身麻酔が85%を占めた(図4)。手術経験は、導入前後ともに経験ありが60%以上を占め(図5)、手術経験がある患者のうち、当院での手術経験ありが導入前70%、導入後33%であった(図6)。

導入前の患者に、手術室看護師からの説明がなくてわからなかったこと、困った事はなかったかの質問には、「なし」が85%、「あり」が15%であった。(図7)「なし」の回答では、「医師や看護師からわかりやすく説明してもらえたので大丈夫だった」「手術経験がある為、大丈夫だった」との意見が聞かれ、「あり」の回答では、「手術室で名前や手術部位の確認などをすると聞いていなかったの、心の準備がなかった」との意見が聞かれた。

手術室看護師からの説明がなかったことでどのように感じたかの質問には、「変わらない」が50%、「手術前に手術室看護師に会っておきたかった」が22%、「説明を聞いておきたかった」が21%、「説明がなくて不安だった」が7%であった。(図8)「変わらない」の中には、「主治医からの説明がしっかりしていたので大丈夫だ

った」という意見が聞かれた。また、「説明を聞いたかった・説明がなくて不安だった」の中には、「説明があった方がイメージがわいた」「術後の点滴の管が多いことや肺塞栓予防の器械が装着されることなどの説明を事前に聞いておきたかった」などの意見が聞かれた。麻酔科外来でオリエンテーションを受けた人は、本人のみが69%、本人と家族が31%であった(図9)。

ここからはオリエンテーション自体の評価として、麻酔科外来を受診した平日入院患者も含んだ結果である。

術前オリエンテーションを受けた回数は、すべての患者が麻酔科外来での説明1回のみであり、入院後に再度説明を希望する患者はいなかった。オリエンテーションには、15分ほどの時間を要したが、時間についてはすべての患者が適当であったと回答した(図10)。

説明を受けた時期については、90%の患者が「良かった」と回答したが、7%の患者が「早い」、3%の患者が「遅い」と回答した(図11)。

「良かった」には、「手術前日だとバタバタするため時期は良かった」「以前の説明は手術前日だったため忙しかった」との意見が聞かれた。

「早い」には、「手術の前日や当日でもよかった」「麻酔科受診が手術より半月以上前であったため1週間前くらい良かった」などの意見があった。

術前オリエンテーションの中で手術室看護師と話したことで、疑問が少しでも解決できたかについては、「できた」「おおむねできた」が40%、「どちらともいえない」が60%であった(図12)。「できた・おおむねできた」には、「分からない事ばかりだったので良かった」「手術の経験があり、イメージできたため、疑問はなかった」などの意見があった。「どちらとも言えない」には、「説明をしてもらってもやっぱり不安は残る」などの意見があった。

術前オリエンテーションで説明した内容の他に説明してほしいかについては、「なし」が97%、「あり」が3%であった(図13)。「なし」には、「3～4回目の手術なので慣れているから、別がない」「把握したい部分を話

してくれた」などの意見が聞かれた。「あり」には、「本人の流れは分かるけど、家族の動きが分からないから家族はどうすればいいのか説明してほしい」などの意見があった。

手術室看護師からの術前オリエンテーションを受けた事に対する印象はどうだったか、の質問に対して、「安心できた」が45%、「変わらない」が32%、「不安が小さくなった」が10%「会えてよかった」が10%、「余計に怖くなった」が3%であった（図14）。「安心できた・不安が小

さくなった・会えてよかった」には、「気持ち楽になった」「想像できてよかった」「イメージがついた」「落ち着いて手術を受けることができた」などの意見が聞かれた。「変わらない」には、「手術経験があったので知っていることが多かった」との意見が聞かれた。

入院前に術前オリエンテーションを受けて良かったか、の質問に対して、「良かった」「おおむね良かった」が90%、「どちらとも言えない」が10%であった（図15）。

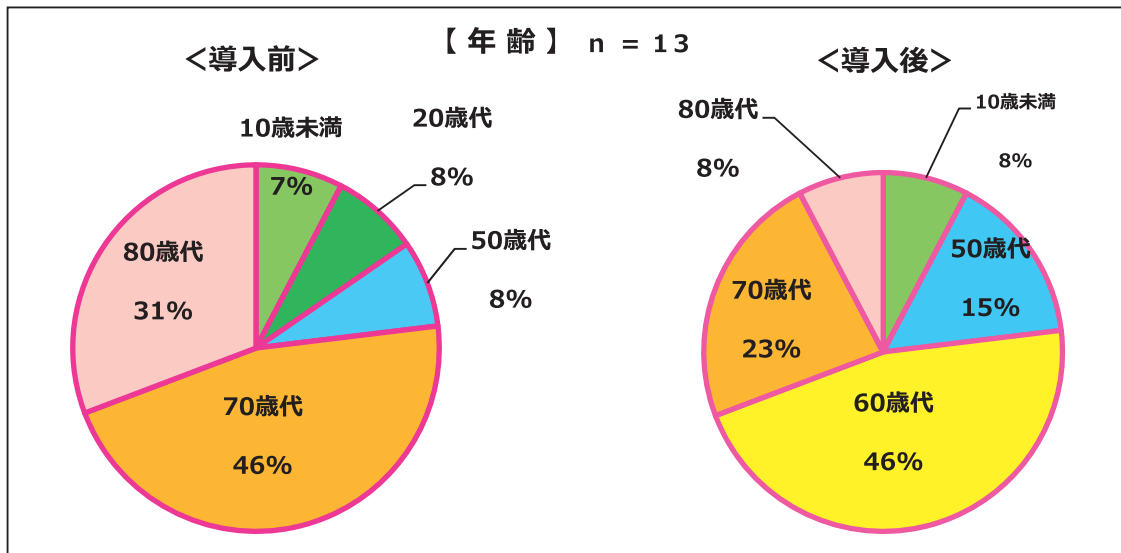


図 1

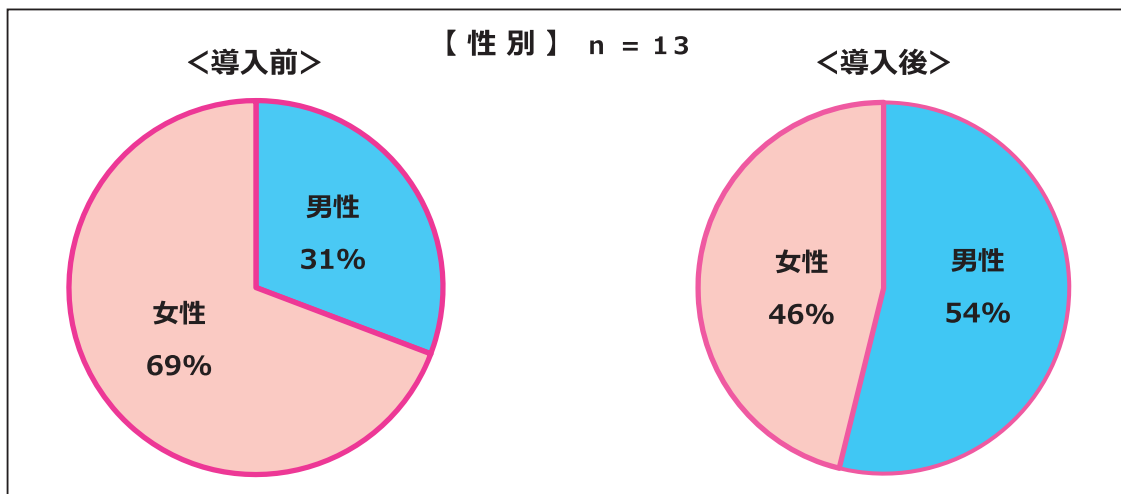


図 2

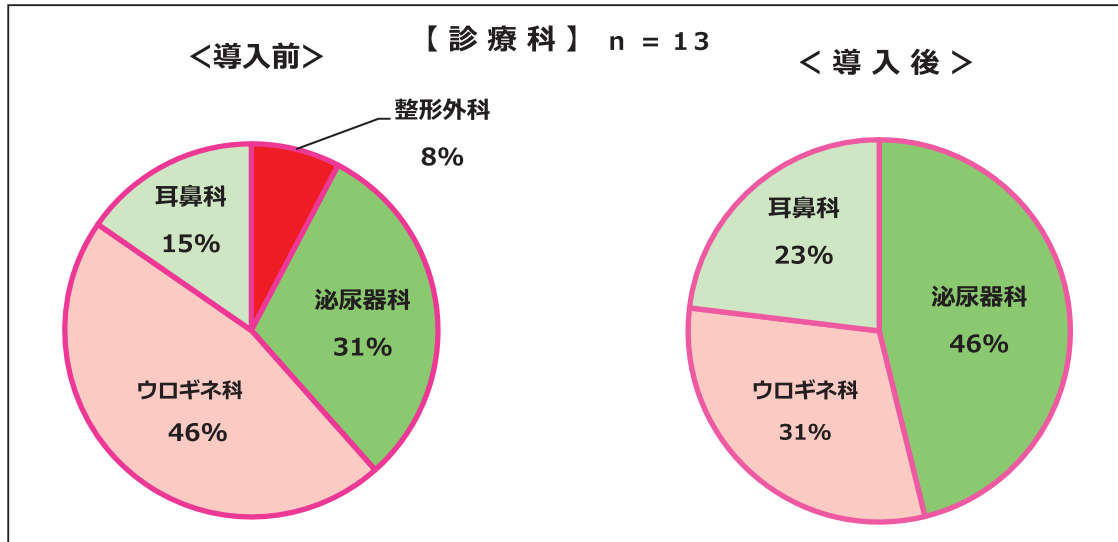


図3

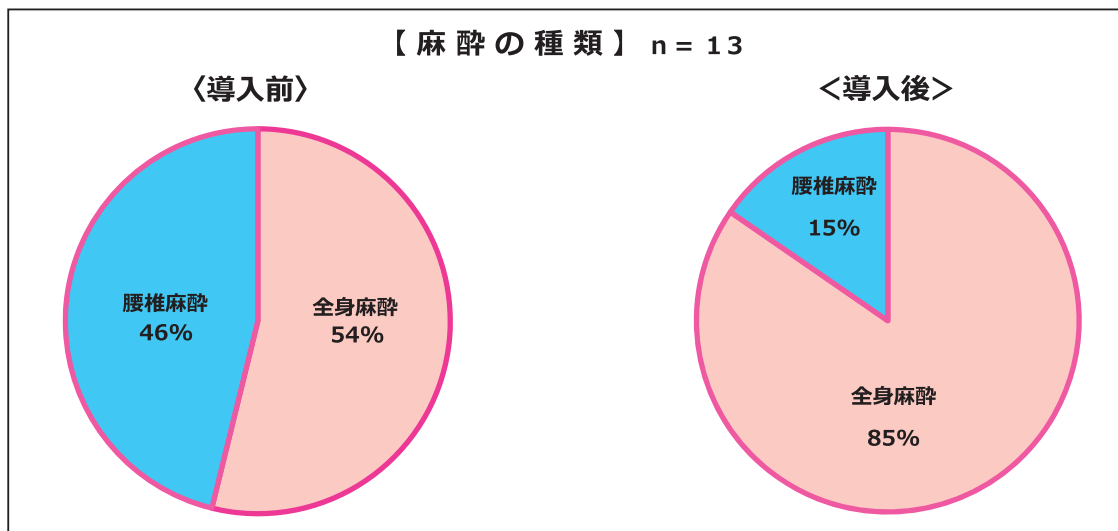


図4

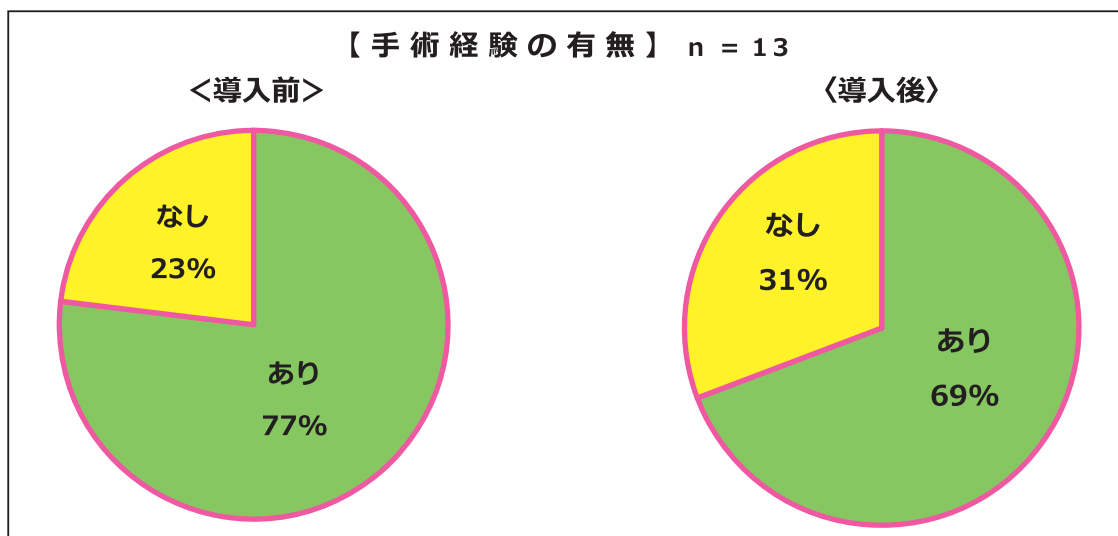


図5

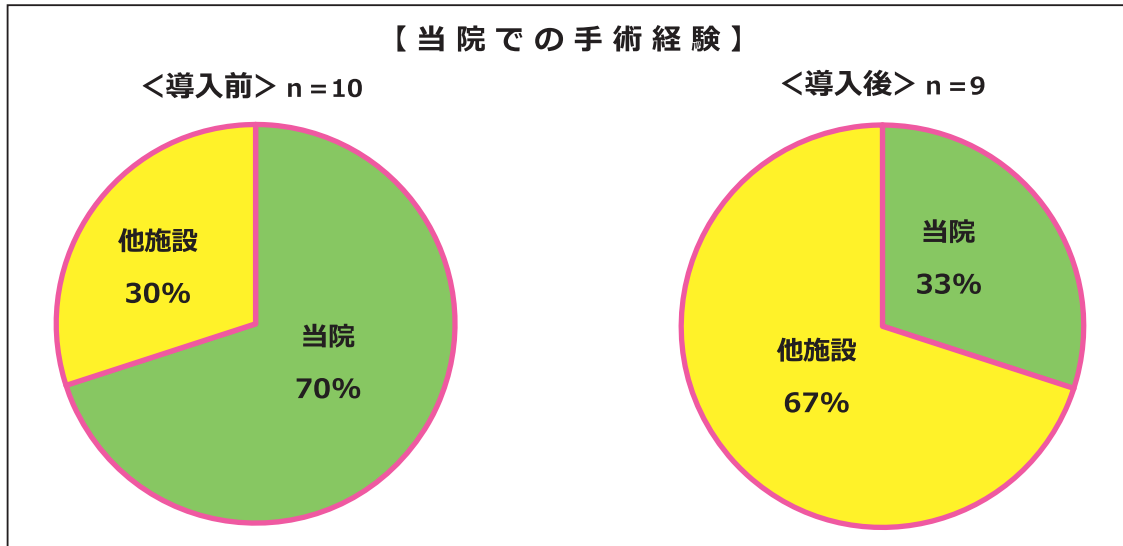


図6

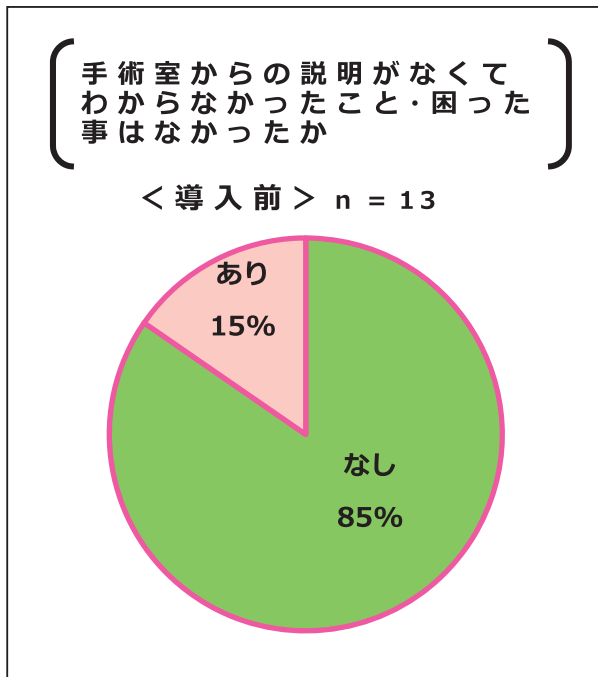


図7

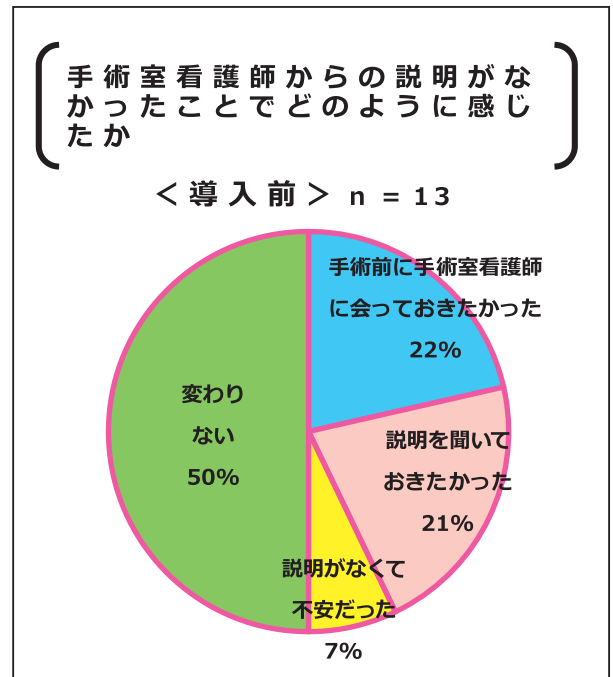


図8

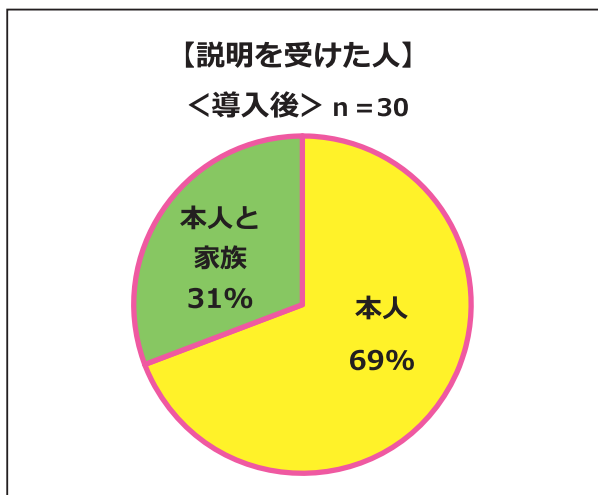


図9

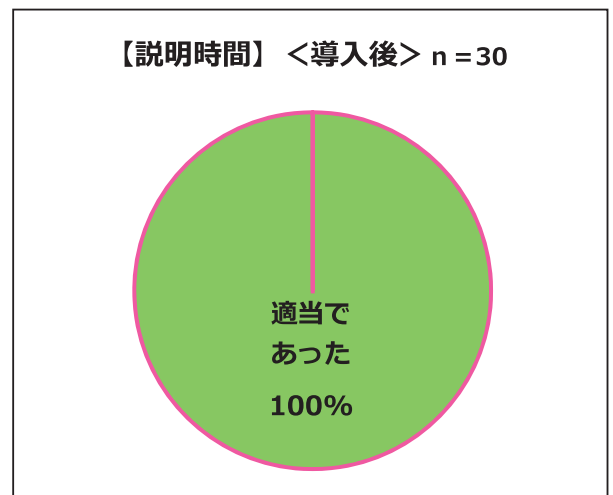


図10

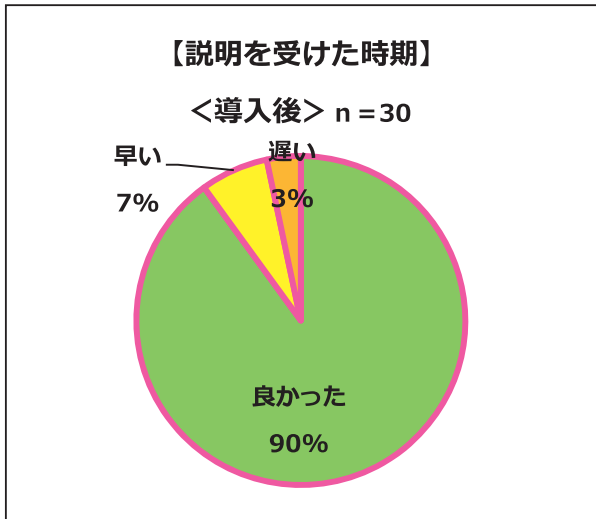


図11

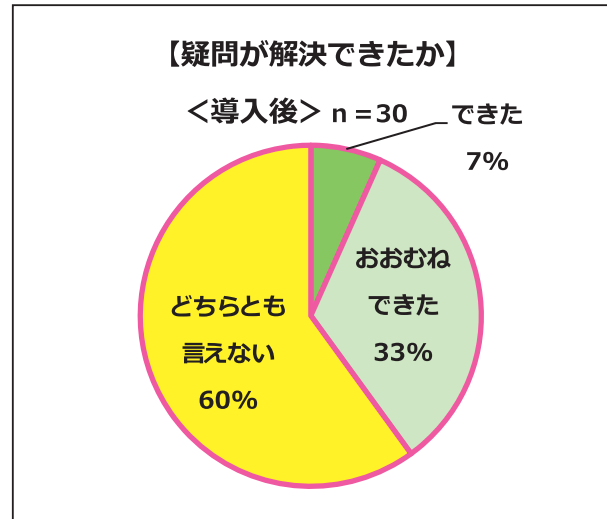


図12

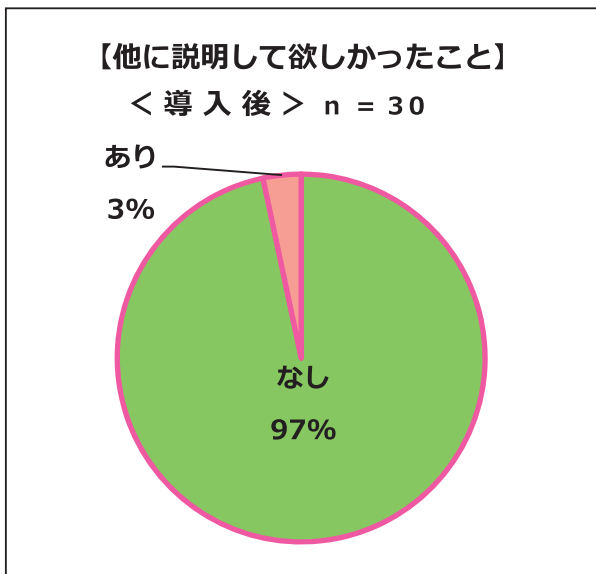


図13

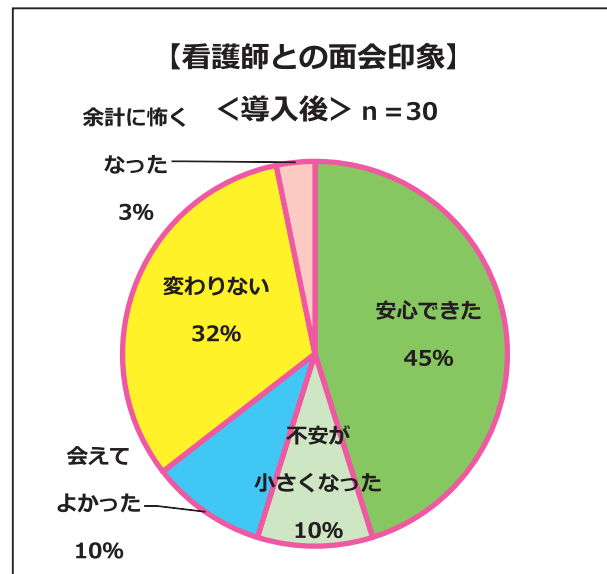


図14

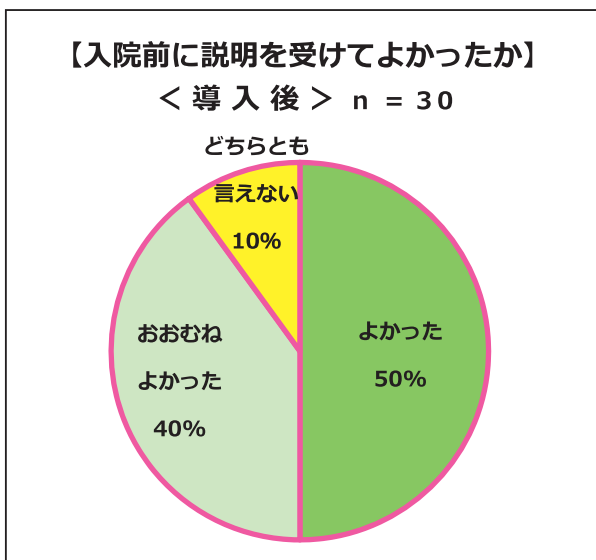


図15

### 【考 察】

当院の麻酔科管理で手術を受ける患者の診療科は、主にウロギネ科・整形外科・泌尿器科・耳鼻科の4科で占めている。その内、ウロギネ科・泌尿器科・耳鼻科が月曜日午前9時からの手術で予定されることが多い。そのため、麻酔科外来での術前オリエンテーション導入前は、その3つの診療科が手術室看護師からのオリエンテーションを受けずに、手術に臨むことが多かった。また、麻酔の種類においても、オリエンテーション導入前はウロギネ科や泌尿器科の手術が半数以上を占めたため、全身麻酔と腰椎麻酔がほぼ同じ割合であったが、導入後は、平



日入院の患者も含まれており、整形外科の手術患者なども研究の対象としているため全身麻酔の割合が多くなったと考える。

手術経験の有無は、オリエンテーション導入前後で大きな差はなかったが、当院での手術経験は導入前の患者の方の割合が高かった。導入前の患者への聞き取り調査では、85%の患者が手術室看護師からオリエンテーションがなくても困ったことはなかったかと回答した。手術経験があったから大丈夫だったとの意見が聞かれていることから、手術経験があることで、手術室で行われることがイメージできたと考える。そして、医師や看護師からの説明がしっかりしていたので大丈夫だったとの意見から、入院前からの患者との関わりの中で、適宜声をかけ必要時説明を行っていく事の大切さを改めて認識できた。また、聞き取り調査を行ったのが術後の落ち着いた時期であり、説明を聞かなくても無事手術を終えることができたという思いもこの結果に影響したのではないかと考える。

しかし、手術経験のない患者の中には、オリエンテーションが行われなかったことで、分からないことや困ったことがあったと回答しており、また、手術経験の有無に関わらず、術前に手術室看護師に会い説明を聞いておきたかとの意見も聞かれた。このことから、手術を受ける患者は、手術という人生で非常に大きなイベントで関わる手術室看護師から手術に関する専門的な知識を得ることで、患者自身で不安の軽減に努めているのではないかと考える。術前オリエンテーション導入後の聞き取り調査の中でも、手術室看護師と術前に面会したことに対し、安心できた、不安が小さくなったなどの意見があった。竹中<sup>2)</sup>は、「術前に1人不安な時間を過ごしている患者に対して手術に直接関わる手術室看護師が術前に訪問し、直接対話することで、患者自身が術後の経過を把握し、回復に役立つ」と述べている。手術室看護師からのオリエンテーションは、患者が不安を軽減し安心感を得ることはもちろんのこと、患者が術後の経過を把握していくうえでも非常に重要な役割を果たしていると考えられる。

オリエンテーションを受けた人は、本人のみが多かったが、31%の患者が家族とともにオリエンテーションを受けることが出来た。今まで行っていた入院後の説明でも可能な限り希望があれば家族同伴でオリエンテーションを実施してきた。しかし、業務の間の空いた時間にオリエンテーションを実施することがほとんどであるため、手術室主体の時間調整となることが多く、患者から「私しかいないけど」と言われることもあった。麻酔科外来は家族同伴で受診する患者も多く、家族とともに術前オリエンテーションを受けられることは、患者の安心感につながったのではないかと考える。

術前オリエンテーション導入後のアンケートでは、麻酔科外来を受診した患者全症例を対象としたため、今まで実施できていなかった患者に加え、手術前日または当日にオリエンテーションの実施が可能である平日入院の患者も対象となっている。麻酔科外来でのオリエンテーションでは、手術を担当する看護師が説明を行うわけではないため、そのような患者には、手術前日または当日に手術を担当する看護師が患者を訪問し、担当の紹介をした後、麻酔科外来での説明で質問がないかなどを聞くことにした。そのため、今まではオリエンテーションを受ける機会が1回であったが、2回受ける機会を設けることができた。今回の研究では、2回目の説明を希望する患者はいなかったため、麻酔科外来での術前説明は有効であったと考える。しかし、他に説明してほしいことはあるかについては、家族待合室の説明をしてほしいとの回答があったため、現在はオリエンテーションの内容に家族待合室の内容を追加して説明している。また、今後2回目の説明を希望される患者もいることも予想されるため、患者の疑問を解決できる時間を設けることができたことはよかったと考える。

麻酔科外来での術前オリエンテーションに要した時間や説明場所については100%が良かったと回答している。術前オリエンテーション実施については、事前に各科外来で説明されていたこと、また待ち時間を少なくできるよう、可

能な限り2名の看護師で実施したことも良い結果につながったのではないかと考える。

説明を受けた時期については、良かったが90%であった。入院前日はバタバタするため時期は良かった、との意見もあり、ほとんどの患者において説明時期が適切であったと考える。しかし、早いとの回答もあった。麻酔科外来は毎週火曜日のみであり、受診日の決定は手術予定日の前週火曜日までに受診するという取り決めがある。各科外来の多くは1～2週間前に麻酔科外来の予約を入れるが、患者の都合などで日にちが合わない場合などは、手術予定日より2週間以上前の早い時期に予約が入ることもある。今回、早いと答えた患者は、手術予定日の2週間前にオリエンテーションを受けていた。今回の研究では、麻酔科外来を受診した患者すべてにオリエンテーションを実施したが、手術日によっては、入院後のオリエンテーションでも実施可能なこともあるため、入院後のオリエンテーションも可能であることを患者に説明し、患者の手術日と希望に応じて、オリエンテーションを実施していく必要があると考える。

入院前にオリエンテーションを受けたことで、患者は安心でき、不安の軽減ができたと答えている。また、入院前にオリエンテーションを受けてよかったと答えていることから、麻酔科外来での術前オリエンテーションは、患者が安心感を得るうえで非常に重要な役割を担っており、それを患者も希望していると考えられる。

麻酔科外来でのオリエンテーション導入後、手術室看護師に導入についての意見を聞くと、ほとんどの看護師が導入してよかったと感じていた。導入したことで、患者がとまどうことなく手術に臨む姿を見る事ができたという意見や、患者情報を早く知ることが出来るため、早めに対策を取れるようになったとの意見もあり、患者の安全性も高めることができたと考えられる。

今回は、患者・家族からの質問にも臨機応変に対応でき、担当医師や病棟・外来看護師とも連携が図れ、マネジメント能力のある、看護師経験15年以上、手術室経験5年以上（病棟経験あり）の主任・係長3名でオリエンテーション

を実施した。今後も、麻酔科外来での術前オリエンテーションは継続していくため、新たな人材確保に向け、スタッフ育成に取り組んでいきたい。

## 【結 論】

麻酔科外来受診日の術前オリエンテーション導入により、これまで時間的制約により実施できなかった患者にも術前の説明が可能となり、患者の安心に繋がった。

## 【引用・参考文献】

- 1) 細澤裕子：術前訪問定着化に向けての取り組み。静岡赤十字病院研究報 35(1)：71-74, 2015
- 2) 竹中由紀栄：手術を受ける高齢患者への心理的支援の効果－術前訪問時の類似体験を通して－。第23回日本手術看護学会集録関東甲信越地区 66-70, 2012
- 3) 阿尾真里：術前外来における手術室看護師の役割。OPE nursing 23(9)：72-75, 2008
- 4) 浦 雅司：患者の心理面・患者家族サポート。手術看護エキスパート 8(5)：1-2, 2014
- 5) 野端万里：周術期患者のニーズを捉えた外来での手術室看護師の窓口の導入と効果。手術室医学 33：158-162, 2012
- 6) 宮川久美子：術前訪問・術後訪問。手術看護エキスパート 10(1)：25-26, 2016
- 7) 茶谷園子：麻酔科との連携と術前訪問－安全かつ不安を取り除いた状態で手術を受けられるための術前評価と他職種連携－。手術看護エキスパート 8(3)：32-39, 2014
- 8) 岩村朱美：周術期外来における手術室看護師の役割とその実際（前編）。手術看護エキスパート 10(1)：123-127, 2016
- 9) 岩村朱美：周術期外来における手術室看護師の役割とその実際（後編）。手術看護エキスパート 10(3)：104-110, 2016